

資料 1

令和7年度 社会福祉法人いいたて福祉会事業報告書

1. 令和7年度 社会福祉法人いいたて福祉会事業報告書
1～ 3ページ

2. 令和7年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告書
4～26ページ
 ホーム事業報告書（全体） 4～ 9
 各家生活報告書（6ユニット） 10～21
 医務室事業報告書 22～23
 厨房事業報告書 24～26

3. 令和7年度 いいたて在宅介護支援センター指定居宅介護支援事業所事業報告書
27～30ページ

4. 令和7年度 事務室事業報告書
31～32ページ

5. 令和7年度 研修報告（研修一覧）
33～35ページ

6. 令和7年度 施設内研修等一覧
36ページ

1. 基本方針

地域福祉に求められるニーズが、より多様化、個別化して行く中で、そのニーズに
 応えられるよう、できる範囲内で施設運営や居宅介護支援事業に反映してきた。

また、人材確保については、様々な情報提供と広報活動、人材紹介事業者や特定技
 能実習等の活用を検討、安定した基盤づくりのために取り組んできた。

(1) 地域貢献

- 社宅の一部を「医師」に無償貸与
 昼夜を問わず、地域医療・福祉に取り組んでいる本田医師に対し、活動拠点の居宅と
 して提供。
 (特に往診等においては、夜中であっても、早朝であっても、快く幾度も対応して頂
 きました。感謝しかありません。)
- 施設内を交流の場として開放
 村内の方との交流は叶わなかったものの、県立医科大学保健科学部作業療法学科生と
 の交流を実施。
 (実務研修等の提供や、災害時の経験について講話等をしてきた。)

(2) 職員の質の向上

- 会議室や相談室を開放。
 オンライン研修等を何時でも受けられるよう部屋を開放。
 (常時、PC機器等が使用できるように設置)
- 資格取得の支援の継続
 資格取得に向け、自由に学習できる部屋を設けると共に、研修費用の支援や勤務シフト
 にも配慮。
- 職員が気兼ねなく相談等ができる部屋(相談室)を設ける。
- 自己研鑽のためのボランティア休暇を推進。

(3) 人材確保

- 職員募集のPRを展開。
 被災地介護施設再開等支援事業補助金を活用。
 (広報誌、各種封筒等に「応援職員募集」と印刷)
- ホームページの更新(適宜)
 (施設内の情報等)
- インスタの発信(適宜)
 (主に施設内でのイベント等)
- 広報紙の年2回発行
 (10月、3月に発行)

2. 事業内容について

・理事会、評議員会、監事監査、評議員選任・解任委員会の開催状況

理事会年5回、評議員会年2回、監事監査年1回開催。

(1) 理事会の開催状況（理事定数6名、監事2名）

回数	開催日	出席(名)		内 容
		理事	監事	
第1回	令和7年 5月26日	5	1	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会理事候補者の推薦について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会監事候補者の推薦について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員候補者の推薦について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員の招集について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の選任について 議案第9号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の招集について 議案第10号 福祉サービスに関する苦情解決体制に関する第三者委員の選任について 議案第11号 社会福祉法人いいたて福祉会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について
第2回	6月24日	6	1	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会理事長の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会業務執行理事の選任について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会経理規程の一部変更について
第3回	10月30日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会理事候補者の推薦について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員候補者の推薦について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員の招集について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員選任・解任委員の招集について 議案第6号 日常費用支払代行費用の見直しについて
第4回	令和8年 1月26日	5	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 老人福祉法に基づく特別養護老人ホーム休止許可申請について 議案第2号 老人居宅生活支援事業休止届について 議案第3号 社会福祉法人いいたて福祉会経理規程の一部変更について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会役員等の報酬に関する規程の一部変更について
第5回	3月25日	6	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 令和7年度社会福祉法人いいたて福祉会収支補正予算について 議案第2号 令和8年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画（案）について 議案第3号 令和8年度社会福祉法人いいたて福祉会収支予算（案）について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第5号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約について



(2) 評議員会の開催状況（定数7名）

回数	開催日	出席(名)		内 容
		評議員	監事	
定時	令和7年 6月24日	6	1	議案第1号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 議案第3号 社会福祉充実残額の算定結果について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会監事の選任について
臨時	11月10日	5	2	報告第1号 諸事業報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会理事の選任について



(3) 監事監査の開催状況（監事定数2名）

開催日	出席(名)	内 容
令和7年 5月9日	2	令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 令和6年度社会福祉法人いいたて福祉会収支決算について 令和6年度理事会及び評議員会の執行状況について
講 評		<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告の中で、一部、名前の訂正及び表現方法を統一して欲しい。 ・計算関係書類及び財産目録等は適正に行われている。 ・運営状況や会計等から見て、少しずつではあるが、前に進んでいると窺える。このことを理事や評議員の方へも助言して行きたい。 ・全体的には適正に処理されている旨の報告あり。



(4) 評議員選任・解任委員会の開催状況（定数3名）

開催日	出席(名)	内 容
令和7年 6月13日	3	社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について
11月17日	3	社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について

3. 役員研修等

本年度もオンライン研修が主となり集合しにくい面もあった。今後は集合研修も期待したい。

4. その他

法人経営の安定を目指し、人材の確保に努めてきた。

1. 基本方針

- (1) 入居者のニーズに沿ったケアの提供、施設での生活が居心地の良いものとなるよう「質の向上」に努めてきた。
 入居者と職員の信頼関係を大切に、また、清潔で安全な環境の中で、落ち着いた生活が送れるよう環境づくりに取り組んできた。このことから、自然と入居者同士の交流の場が開け、穏やかな日常生活に繋がっている。
- (2) 4月からタブレット端末や介護ソフト、インカムを導入により、日々の支援記録がリアルタイムで入力できるようになった。また、様々な情報の共有が可能になったことで業務の効率化に繋がった。結果として、今まで課題だったケース入力の作業時間が短縮され、その分ケアに多くの時間を充てることができた。加えて、職員の動線や業務の改善にも繋がった。
- (3) 本年度は、ホームでは5名の新規職員を迎え育成に取り組んできた。新規採用者に対しては、業務に必要な知識や技術の研修を段階的に行ってきた。また、先輩職員を交えた研修も継続的に行い、職員会議や専門会議でスキルの向上にも努めてきた。しかし、新規採用者を迎えた反面、永年勤続者の5名が退職し、業務体制に苦慮する場面が多々あった。
- (4) 事業継続計画では、自然災害や感染症発生時における対応手順の周知徹底を図ってきた。特に初動対応や連絡体制、役割分担の確認を行い、危機管理意識の向上に繋げることができた。(机上訓練年各2回、演習年2回実施。特に演習では、二次災害時を踏まえ移送訓練も実施。同時にマニュアルの見直しも行ってきた。)



(避難訓練) (移送及びケースファイル等受渡し) (消火訓練)

- (5) 職員の資質向上を目的に、身体拘束防止(年2回)、高齢者虐待防止(年2回)、リスクマネジメント(年2回)、認知症ケア(年1回)に関する各種研修を、職員会議で定期的実施した。これにより理解が深められ意識向上に繋がった。

2. 具体的な取り組み

(1) 入居状況

① 介護度区分状況 (R8.3.31 現在)

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男性	—	—	4	2	2	8
女性	—	—	5	20	11	36
合計	—	—	9	22	13	44

前年度に比べ、男性は若干増加し、要介護3～4の割合が増え、全介助を要する方も多くなってきている。また、認知症状を有している方が全体の9割以上占めている。

② 月別入退居状況（R7年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者数	2	1	1	1	2	1	0	0	2	1	1	1	13
退所者数	0	2	1	1	0	2	1	2	1	1	0	1	12
月末入居者数	45	44	44	44	46	45	44	42	43	43	44	44	

（2）生活・環境面の充実

取組	具体的な内容
1. 居心地の良い環境づくり （安らげる環境）	1-① 「居場所づくり」のため、設え等に工夫してきた。また、心安らげる環境（居室やフロア等）づくりのため、入居者に合わせ家具やテレビを配置してきた。 ② 感染防止のため、整理整頓や消臭対策、共用部の清掃や除菌等に努め、更に食後のテーブルは除菌スプレーで対応してきた。
2. 生活リズムの維持	2-① 毎月ケア会議を開催。職員間でケアの均一化を図れるようにした。しかし、ケア会議で決定した翌日に体調変化が生じ、ケア内容の見直しが必要となることも稀ではなかった。
3. 家庭的な雰囲気づくり	3-① 一人ひとりの生活習慣、意向を尊重し、居心地の良くなる環境を整えてきたことから、西棟ホールに自ら集まり交流する方や、家内でゆっくりと寛ぎ過ごす方が増えてきた。 ② 個々の誕生日祝いを継続してきた。特に節目のお祝いを迎える方に対しては、賀寿の種類に沿った装いで記念撮影。（写真は家族の方にも提供してきた。）

・ 面会への取り組み（状況）

面会回数	0	1	2～5	6～10	11～20	21以上
入居者	3	7	11	16	3	4

面会コーナーを設け、対面での面会を可能にしてきた。このことから、お互いの声が聞こえ、会話も弾み入居者にも笑顔が増えました。

面会回数は、多い方で年 28 回（定期的な面会や行事に合わせての面会）でした。また、連絡をしても都合により面会が叶わなかった方もあり、本人のためにもできるだけ連絡を取っていききたい。

（3）サービスの質の向上

（食事）

取組	具体的な内容
1. 体調に合わせた食事	1-① 食べられるタイミングを見逃さず“好きなものを食べたい時に食べる”ことを目標に努めてきました。 ② 食事の嗜好、咀嚼、嚥下の現状を把握し、食事形態を選定。（常食、軟食、キザミ食、ペースト食、ゼリー食等に力を入れてきたが、疾患の進行等により嚥下が難しくなる方も増えてきました。） ③ 適正な水分の粘度調整や介助方法等、看護師・栄養士・調理職との連携で安全な食事介助に取り組んできました。
2. 口腔内の清潔保持	2-① 口腔ケア体操や会話を増やすことで、摂食機能の維持に努め、また、毎食後の口腔観察でトラブルの早期発見にも努めてきた。 ② 歯科医の往診（月1回）により、義歯調整や残歯の炎症等の治療が受けられ、また、医師指導の下、個々に合った口腔ケアができた。
3. 緊急時の対応	3-① 職員会議で、誤嚥や窒息のサインを見逃さないよう、緊急時の対処方法についての勉強会を行ってきた。

(排泄)

取組	具体的な内容
1. 体調に合わせた排泄支援	1-① 個々の排泄量や時間を把握し排泄用品の選定を行ってきた。また、パットが改良されたことにより、そのパットを使用することで、排泄介助の回数が減らせ夜間帯の安眠確保に繋がった。
2. トイレ介助への移行	2-① 日々のケアでは排泄が中心となることが多いため、的確な排泄パターン等を把握、いかに快適に過ごして頂くかを話し合ってきた。
3. 皮膚の保護	3-① 陰部洗浄や清拭、ワセリン塗布等で皮膚トラブル防止に努めてきた。 ② 個々に合ったパットの選定等で蒸れ防止に努めてきた。

(入浴)

取組	具体的な内容
1. 体調に合わせた入浴支援	1-① 男性の方や大柄な方が増えたことから、安全な移乗介助と職員の腰痛防止を図るため、リフト浴を使用してきた。 ② 状態によっては、福祉用具の活用や2人介助で対応をしてきた。 ③ 皮膚の状態によって、シャンプーやソープの種類を使い分けをしてきた。 ④ 入浴後は、全身にボディクリームを塗り皮膚の保湿に努めてきた。
2. 快適な入浴	2-① 湯温(38~40℃)や、浴室温度(23~25℃)を保ってきた。 ② 状態によりマンツーマン介助でゆったりとした入浴を提供。 ③ 季節に合わせた入浴を実施。(6月菖蒲湯、12月柚湯)

(自立支援)

生活にメリハリを持ち、“何か”をしてみたいとの自発性を大切に、役割を見出すことで精神面や自立感、達成感を味わって頂けるよう支援してきた。

取組	具体的な内容
1. レクリエーションへの参加	1-① 毎朝8時にラジオ体操を放送することで、体の目覚めを促してきた。 ② 昼食前の口腔ケア体操で、嚥下機能の低下防止に繋げてきた。 ③ レク体操で身体機能維持や他者との交流を図ってきた。
2. 趣味や生きがいづくり	2-① クラブ活動等の実施。 ・ 手芸や貼り絵、塗り絵等、各家内で行ってきた。 ・ カラオケについては、西・北棟別に毎週日曜日に計画を立てていたが、参加できる方が少なく実施は難しかった。 ② 手芸等、作品は村文化祭へ出品。地域との繋がりを大切にしてきた。(本年度は七夕飾りを出品、飯舘村老人クラブ連合会長賞を受賞。)
3. 買い物支援	3-① 外出しての買い物は出来なかったが、カタログから好きなものを選び、注文し購入してきた。 ・ 自分で選べることと、達成感を味わって頂いた。



(重度化のケアと看取り)

看取りに対しての意思を尊重、「最期までここで過ごせて良かった」と思ってもらえるケアを多職種連携により提供できたかと思えます。

取組	具体的内容
1. 最期まで諦めないケア	1-① ベッドの環境をより安楽に。 <ul style="list-style-type: none"> ・ マットレスや寝具の見直し等を行ってきた。 ② 苦痛を感じさせないケアの提供。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手足の冷感対策と褥瘡をつくらないケアを徹底してきた。 ③ 体に負担がかからない入浴方法や清潔の保持。 <ul style="list-style-type: none"> ・ その日の体調を看護師に報告、指示を仰ぎながら対応してきた。 ・ 入浴出来ない場合は清拭で保清してきた。
2. 孤独感を感じさせない	2-① 希望により、フロアにベッドを移動し過ぎて頂いた。 ② 居室内でも好きな音楽やテレビを観ることで、個人の思いを尊重してきた。 ③ こまめに訪室しスキシップに心掛けてきた。 ④ 家族との面会時間を多く持てるよう働きかけてきた。

(3) 人材育成

(職員育成)

- ① 新採用職員に対しては、研修やOJTを通じて支援技術の習得を支援してきた。また、各委員会では、専門性を学び課題解決に向け取り組んできた。
- ② 本年度から自主性を高めるため、家長会議をリーダー会議に改めた。構成員は主任看護師・副主任生活相談員・副主任調理師・家長とし、多職種で協力しながら入居者に係る様々なことに対し提案していくことを会議の目的とした。

取組	具体的内容
1. 職員育成	1-① 介護及び福祉関連資格取得への支援。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修費用等の支援やシフトに配慮してきた。 ② 専門的な介護知識や技術を習得。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内外の研修や会議に参加し、現場にフィードバックをしてきた。 ③ チームケアで日常生活を支援。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT等を活用、詳細な情報を共有してきた。 ・ サービス計画を基に、臨機応変に対応できるよう支援してきた。
2. 会議、委員会の充実	2-① 各会議の開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議、リーダー会議（生産性向上委員会）、家会議、ケア会議。 ② 各委員会の開催。（7つの専門委員会） <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全対策委員会、身体拘束委員会、感染症対策委員会、事故防止対策委員会、ケア向上（褥瘡防止）対策委員会、環境設備委員会、行事広報委員会。
3. ケアマネジャーとの連携	3-① ケアマネジャーと情報を共有。（アセスメントと意向確認、ケアチェック等） <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議でケアプラン（介護サービス計画）の必要性について説明してきた。（日々変化する中での計画作成は難しい面もある。）



(安全性と危機管理)

① 職員会議や委員会において、専門知識の習得や周知、訓練等を行ってきた。

取組	具体的内容
1. 安全性と危機管理	<p>1-① 身体拘束ゼロの取り組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体拘束の可否や、別方法についての確認等を行ってきた。 身体拘束防止委員会：月1回開催。 職員勉強会：年2回実施。 <p>② 感染症等防止対策（コロナやインフルエンザ等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出勤時の検温や手指消毒、うがい、マスク着用を徹底してきた。 空間除菌器等による施設内の衛生環境を図ってきた。 食後のテーブルと共用部の手すり等、消毒の徹底。 ケア後の手指消毒を徹底してきた。（特に排泄介助や口腔ケア） 感染対応マニュアルを見直してきた。 感染時の対策とゾーニングを徹底してきた。 感染発生時に備えた勉強会を実施してきた。（年4回） <p>③ 災害の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 事故安全担当者や設備・環境委員会を中心に、施設内の環境及び福祉用具等の不具合を適宜確認してきた。 防災マニュアルを見直してきた。（停電時の対応等） 緊急時の持ち出し品、非常食等の備品管理及び点検をしてきた。 <p>④ 避難訓練の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 火災・水防想定等訓練（月1回）、自然災害時の訓練（年2回）、原発災害時の訓練（年1回）
2. 職員の腰痛予防対策	<p>2-① 移乗介助（ノーリフト）の勉強会を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> 移乗用福祉用具と移乗用ロボットを試用、利用できるものを活用してきた。（肘あげ式車椅子へ移行、移乗用ボードやスライディングシートの整備。） 移乗介助技術の勉強会を実施。 リフト浴の活用。 腰痛ベルト必着の徹底。

(4) 施設運営

ICTの活用では、当初、操作で慣れない面もあったが、研修やサポート体制により定着が進んだ。結果、業務の効率化と情報共有の迅速化が実現し、支援の質の向上に繋がられた。

取組	具体的内容
1. 介護報酬の理解	<p>1-① 科学的介護情報システム（LIFE）を活用したPDCAサイクルの促進等。</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学的介護推進体制加算等の取得を検討。係る書類の準備をしてきた。 会議でフィードバックされた内容をケアに活かしてきた。
2. 入居者を迎える	<p>2-① 適した居室と福祉用具（車いす）等の提供、相談。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々に合ったものについて話し合い、必要なものを整えてきた。 生活感のある設えにするために、説明や理解を得てきた。
3. コスト削減の	<p>3-① 電気料金高騰に伴い、今以上の節電対策を周知。</p>

<p>取り組み</p> <p>4. ICTの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 照明や家電製品をこまめに消灯。 ・ 室温 夏期間 27～28℃、冬期間 22～23℃。 ・ 湿度 年間通して 45%以上に。(全居室加湿器使用) ・ 床暖房の使い方や調整を周知してきた。 <p>② 消耗品の選定と管理。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生管理と、物を大切にすることを浸透させるため、“声掛け”の取り組みを行ってきた。次年度も継続していく。 <p>4—① 新しい介護ソフトの導入により、ケース記録はスマホとインカムで入力が可能となり、業務時間の短縮に繋がった。</p> <p>② 会議資料は電子配信やパソコン、タブレット等で確認できるようにしてきた。</p> <p>③ ICTネットワーク機器を活用することで、職員間で素早い情報の共有が行えた。</p> <p>④ ケース記録が簡素化できたことで、入居者への関わりを多く持つことができた。</p>
------------------------------	---



3. 年間行事の実施

内 容		内 容	
4月	家族会総会、花見交流会	10月	外食ドライブ
5月	花見ドライブ	11月	芋煮会、ミニ運動会
6月	外食・ドライブ	12月	クリスマス会、餅つき
7月	七夕会	1月	新年会
9月	ホーム夏祭り(納涼祭) 敬老会	2月	節分、豆まき
		3月	ひなまつり



1. 家目標と方針について

(1) 思いもよらない認知症状の進行の速さに戸惑いながらも、その行動や思いを理解しつつ、その方のもつ個性が活かされるよう、情報を共有しながら、穏やかに生活が送れるよう努めてきました。また、日常生活がマンネリ化しないよう、気分転換に散歩に誘ったり、得意な縫物をお願いしたり、タオルたたみのお手伝いをして頂いたり、時には、ゆっくりじっくり昔話を聴いたり、ゆったりとした雰囲気の中で、一人ひとりの思いに寄り添う介護をしてきました。これからも暖かい家を目指して頑張っていきたいと思います。



(2) 入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者数と年齢

入居者数	7人	最高齢者	95歳	平均年齢	92歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	1人	5人	1人	4.0

③ 認知については、軽度1人、中度～重度6人。

2. 具体的内容

<p>(1)生活</p>	<p>① ストレスを溜め込まない環境づくりとして、歌が好きな方に対しては一緒に歌い、身体を動かす事が好きな方に対しては、輪投げや、足の運動に新聞手繰り寄せなど、工夫を凝らし、ものを提供することで、笑顔も見られ楽しんで運動をして頂けたと思います。また、散歩も日課として行い、気分転換を図ってきた。</p> <p>② 居室で過ごす時間が長い方については、孤立感を味わうことがないように、テレビやラジカセを準備するほか、離床シフロアで過ごす時間を設けたことにより、他の入居者とコミュニケーションを図る事ができました。また、季節感を楽しめるようフロアの空間に飾り物をする事で、和める家づくりにしてきました。</p> <p>③ 長年培ってきた趣味や教養を活かし、お裁縫や花壇づくり、菜園で土いじりをしてきました。作業中は昔話に花が咲き楽しそうにしていました。</p> <p>※ 面会状況 : 面会延べ人数 150人、最多者 27回</p>
<p>(2)食事</p>	<p>自から食べることが困難で、介助しても口を開けてくれなかった方が、好きなものに対しては自然と手が伸び、その食べる行為を見せてくれたことが、とても嬉しく思いました。このことから“食べる”ことの大切さを改めて学びました。これからも、食事形態の見直しをはじめ、分食や嗜好を確認するなど、少しでも</p>



	<p>満足感を味わってもらえるよう多職種と連携し介護に努めたいと思います。</p> <p>※ 食事形態状況 : 軟食5人、ミキサー食1人（ゼリー食1人夕のみ）、 経管栄養者1人</p> <p>※ 食事介助者 : 全一部介助1人、自立5人</p>
(3)入浴	<p>① 入浴に抵抗が見られる方の対応としては、声掛けに工夫したり、気を紛らわせながら誘導したり、音楽の好きな方には音楽を聴きながら入浴して頂いたり、無理強いすることなく、試行錯誤しながら入浴の環境づくりに努めてきました。</p> <p>② 在宅酸素をしている方の入浴介助は、医務と連携を密に、細心の注意を図りながら、家内の個浴に2人介助で安全に最後まで入浴して頂きました。</p> <p>※ 年間入浴者数（延べ回数） : 個別浴 286 回、機械浴 323 回 (2人対応での個別浴者1人)</p>
(4)排泄	<p>排泄チェック表を活用しながら、個々の状態に合った環境を整え、また、医務と連携しながら健康状態の把握に努めてきました。</p> <p>※ 排泄介助内訳 : トイレ介助者5人（一人当たり1日平均8回～9回） オムツ交換者2人（一人当たり1日平均5回～6回） (ベッド上での交換者2人の内、トイレ介助を2人対応で行う方1人)</p>
(5)認知症ケア	<p>① 否定的にならないようにも思っていますが、つい感情のコントロールが乱れることもありました。また、ケアで悩んだ時は、些細なことも申し送り欄に記入し、話し合いを持つなど職員間で情報を共有し、前向きにケアに取り組んできました。</p> <p>② 一人ひとりの状態は其々違いますが、表情や言動から判断し、柔軟に対応できたと思います。</p> <p>③ コミュニケーションを図り、若い頃の話や生活歴を知ることで、ケアに繋げることができた。徐々にですが信頼関係もできてきたかなと思います。</p>

3. その他の取り組み

- 昔を思い出せるよう、園芸や菜園を共に楽しみ、キュウリやナス、ミニトマトを収穫、漬物や炒めものを一緒に作り、楽しいひと時を過ごせたかなと思います。



- 夏には一緒に吹き流しを作成し見事優勝。トロフィーを獲得、副賞も頂きました。副賞で美味しい手巻き寿司を頂くことができました。

1. 家目標と方針について

- (1) 家庭的で“ほっとできる家”づくりを目指し取り組んできた1年でした。一人ひとりの時間に合ったケアの提供については、概ね出来ていたように思います。また、居室で過ごされる方が殆どですが、孤独感を感じさせないようコミュニケーションを取ることに心掛けてきました。
- (2) 小さな変化にも気付き、体調管理や事故防止に努める事ができた。
 申し送り等で報連相を徹底し、周知することで上手く繋ぐことができていたと思います。ただ、分かり易く口頭での伝達が少なかったと思います。次年度は課題に向き合い口頭での情報共有も徹底していきたい。
- (3) 居室で過ごされている方でも楽しめるよう、好きな音楽を聴いたり、テレビを観たり、口ずさんだりできる環境を提供することで、少しでも“ホッと”して頂けたかなと思います。
- (4) 面会時、家族の方に近況をお知らせしていましたが、もう少し日常生活の様子や誕生会の写真を見て頂ければ良かったかなと思いました。
- (5) 入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者数と年齢


入居者数	7人	最高齢者	94歳	平均年齢	87歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	1人	4人	2人	4.1

③ 認知症については、軽度3人、中度～重度4人。

2. 具体的内容

<p>(1)生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 感染症等に配慮しながらも、施設の行事に参加してきた。(夏祭りやミニ運動会など季節折々のイベントを楽しむことができた。) ② 会話や意思疎通ができる方が多く、日常的に笑顔溢れる時間を過ごせた。 ③ ベッド環境(クッションやマットレス、ムートン等)を、個々の状態に合わせ選定、使用することで褥瘡や皮膚トラブルの防止に繋がった。また、離床時間も個々の体力等に合わせ回数を増やすことができていた。 ④ 逆流性食道炎の対応として、食後、マッサージ機を利用、腹部を伸ばすような姿勢で休んで頂くことで、消化を促し嘔吐の軽減に繋がってきた。 ⑤ 体位交換や移乗介助の際、福祉用具(スライドボードやスライディングシート)を使用することで、入居者も職員も身体の負担軽減に繋がりが良かった。今後も様々な福祉用具等を有効に取り入れていきたい。 <p>※ 面会状況 : 面会延べ人数 113人、最多者 14回</p>	
--	--

(2) 食事	<p>① 個々の嚥下状態、咀嚼に合わせ食事形態を見直すことで、美味しく食べて頂くことができた。また、姿勢や座位保持を徹底することで、安心して食することもできた。</p> <p>② 個々に合った自助具や滑り止めを選定、食べ易い環境をつくってきた。</p> <p>③ 食前体操（パタカラ）にも力を入れ、飲み込みや咀嚼がスムーズに行えるよう促してきた。</p> <p>④ 嚥下、咀嚼を促すため、アイスマッサージを毎食前に行うことで、スムーズに食事を摂取する事が出来るようになった。</p> <p>⑤ 歯科衛生士の指導もあり、口腔ケアの遣り方を見直すことで、嚥下機能の維持だけでなく口腔内の把握にも繋がった。それに伴って個々に合った用具の選定も行うことができた。</p> <p>※ 食事形態状況 : 軟食2人、キザミ食3人、ペースト食1人、ゼリー食2人</p> <p>※ 食事介助者 : 全介助1人、一部介助3人</p>
(3) 入浴	<p>① 入浴が好きな方ばかりなので、お気に入りの入浴剤を使用し、音楽を聴きながら入浴を楽しんで頂くことができた。</p> <p>② 皮膚トラブル（内出血）にならないよう常に慎重にケアを行ってきた。また、状況により2人で対応することで、安全に入浴を行うことができた。</p> <p>③ 特浴（機械浴）対象となる方でも、2人対応にすることで個別での入浴が可能となった。また、個別浴は家庭的な雰囲気味わえ、「良い湯だな」「体の芯まで温まる」と、笑顔で応えてくれます。今後も継続して行きたいと思えます。</p> <p>④ 特浴の際、リフトを使用。また、移乗時にスライドボードやスライディングシートも使用することで、安心して入浴に繋げることができた。今後も更に力を入れて行きたい。</p> <p>※ 年間入浴者数（延べ回数） : 個別浴 507 回、機械浴 253 回</p>
(4) 排泄	<p>① 尿量と皮膚の状態に合ったパットの選定や、個々に合った時間帯で排泄交換を行い、皮膚トラブルの防止や褥瘡予防に力を入れてきた。</p> <p>② プライバシーに配慮、安心して排泄できる環境を整えてきた。</p> <p>③ トイレ介助も、本人が行きたい時間に誘導してきた。</p> <p>④ 皮膚トラブルが起きた時は、パット等の交換時間等も考慮しながら柔軟に対応してきた。また、再発しないよう注意点を周知してきました。更に、移乗方法も検討し、変えていく事で内出血や裂傷も防ぐことができた。</p> <p>※ 排泄介助内訳 : トイレ介助者1人、オムツ交換者5人、オムツからボクサーパンツ移行1人</p>
(5) 認知症ケア	<p>① 認知症ケアについては、言動の意味を理解し、目線を合わせコミュニケーションを取りながら声掛けができた。また、否定的な内容で正すような声掛けはしないようにしてきた。</p> <p>② 一人ひとりに向き合う時間を、もう少し多く取れば何を求めているのか、何をしたいのかを、より知ることができたと思う。</p> <p>③ 全体的には、なじみのある関係が築け、落ち着いた中で過ごすことができていた。</p>

1. 家目標と方針について

(1) 入居者一人ひとりに寄り添い、心の声に耳を傾けることを目標に、職員が一致団結して取り組んできた。また、性格や好み、生活スタイルに応じたケアを行い、“思い”を出来る限り叶えることで、満足感のある生活や笑顔を多く引き出すことができた。

(2) 「おはよう」「おやすみ」と云ったあたりまえの挨拶や、何気ない声かけ、会話通して信頼関係を深めてきた。ただ、自ら意思表示ができない方に対しては、何をして欲しいのか、何が苦痛なのかを見極めることの難しさを痛感した。

私達は、入居者の表情や小さな変化にも気付ける目を養いながら、居心地良く、関わりで安心でき、気持ちが温かくなれるようなケアを提供し、家族のような関係で生活を共にすることができるよう努めていきたい。

(3) 入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者数と年齢

入居者数	7人	最高齢者	93歳	平均年齢	89歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	3人	2人	4.0

③ 認知症については、認知なし1人、軽度1人、中度～重度5人。

2. 具体的内容

<p>(1)生活</p>	<p>① 入居者の生活スタイルに応じ、居室やフロア間で自由に過ごせる環境（炬燵やソファの活用、個人スペースでの居場所）づくりに努めてきた。</p> <p>② 観葉植物や季節の花（鉢植え、生花）を飾り、四季を感じられるよう設えてきた。更に、中庭で花を、畑で野菜を育て日常の楽しみをつくってきた。</p> <p>③ 塗り絵や間違い探しの本を使用、ユニット内で楽しんだ。時には、職員と一緒に民謡を歌い賑やかな時間を過ごすことができた。</p> <p>④ フロアと居室の整理整頓、清潔保持、消臭対策をはじめ介助前後の手洗いや細目な換気を行い、ユニット内の感染予防に取り組んだ。また、体調不良者が出た際、看護師の指導の下、適切な対応を行い状態悪化防止にも努めてきた。</p> <p>※ 面会状況 : 面会延べ人数 106人、最多者 23回</p>
<p>(2)食事</p>	<p>① 咀嚼の変化や嚥下機能低下者に対し、看護師や厨房と連携を取りながら、摂取状況に応じた食事形態や補助食品等で補ってきた。また、提供内容を定期的に見直し、嗜好に応じながら、美味しく安全な食事提供に繋げてきた。</p> <p>② 個々の時間に合わせ食事の提供や食器を選定。また、福祉用具等を活用し、自力で摂取できる喜びを味わえるよう努めてきた。</p> <p>③ 「なぜ食べたくないのか」その背景を探り、幾度となく対応を重ねてきたことで、徐々に摂取量が増えたり、固形物が食べられるようになった方もいました。また、「美味しい」と食べてくれた時はとても嬉しい気持ちになった。</p> <p>④ 歯科医師等による口腔衛生指導の下、自歯の維持や衛生管理に努めた。更に、口腔体操を職員が率先して行うことで、唾液の分泌や機能低下予防にも繋げてきた。</p> <p>※ 食事形態状況 : 常食2人、超キザミ食3人、ゼリー食1人、 疾病食1人、(経管栄養2人(※経口摂取困難時))</p> <p>※ 食事介助者 : 全介助2人、一部介助2人</p>



<p>(3)入浴</p>	<p>① 個々に合った入浴剤やボディクリーム等で保湿に心掛け、皮膚トラブルに発展しないよう取り組むことができた。また、入浴時に発見した異常についても、直ぐに看護師に報告し申し送りに繋げてきた。</p> <p>② 「入りたくない」と訴えのある方に対しては、声掛けの工夫や本人の入りたくなるタイミングで入浴（午前浴）を提供。また、温かいお湯につかり“気持ちいい”“さっぱりした”と感じられるよう、湯温の調整や羞恥心にも配慮しながら提供にあたってきた。</p> <p>③ 皮下出血予防の保護のため、リフトやスライドボードを使用し、抱えない介護に取り組んできた。結果、無理なく安全に介助する事ができ、入居者と職員双方の負担軽減に繋がった。</p> <p>④ 全身状態の観察（浮腫の有無と体重の増減を把握）を行い、看護師への確に報告するよう努めてきた。</p> <p>※ 年間入浴者数（延べ回数）： 個別浴 320回、機械浴 446回</p>
<p>(4)排泄</p>	<p>① 申し送り時は、隠語（施設独自に決めたもの）を使用。また、排泄時はカーテンや扉を閉め羞恥心に配慮し対応してきた。</p> <p>② できる限りトイレでの排泄を支援し、爽快感と満足感が持てるよう努めてきた。筋力低下等で、ベッド上での対応に変更した方でも、負担が少なく、スムーズな排泄が継続できる対応をしてきた。</p> <p>③ 排泄チェック表を活用、個々に合った時間での排泄交換や、尿量に応じたパットの選定ができた。</p> <p>④ 排便による肛門付近の皮膚トラブルに悩み、対応に苦慮した時もありました。しかし、看護師の協力のもと、下剤の調整や申し送りを徹底し、こまめな排泄交換と洗浄で清潔保持に努めてきました。それでも一時でも苦痛を与えてしまったことが悔やまれる。今回の経験をこれからのケアに活かして行きたいと思う。</p> <p>※ 排泄介助内訳： トイレ介助者5人、オムツ交換者2人 オムツ使用からトイレ介助へ移行人数1人</p>
<p>(5)認知症ケア</p>	<p>① 言動に対し否定せず、受け止めることを意識して取り組んできた。時には言葉を優しく言い換えたり、表現でコンタクトを取ってきた。</p> <p>② 自己決定と現有機能を活用しながら、入居者の意思を尊重してきた。“して欲しいこと”“して欲しくないこと”を考えケアを行ってきた。</p> <p>③ 関わりの中で理解を深め、入居者に対して一番の理解者であり、代弁者でありたいと皆が思っていた。今後、この思いを大切に、お互いに支え合いながら多職種間で協働して行きたい。</p>



1. 家目標について

好きなことや、好きな物を食べるなど、選べるような環境づくりに心掛けてきた。また、率先して新しいことにチャレンジ（ノーリフトケア）してきた。



2. 具体的な方針について

- (1) 月に一度、ユニット内で行事を開催してきた。(毎月の家会議時に予定を確認)
- (2) 補助具を使用し、抱え上げない・擦らない介護に努めてきた。(補助具の使用方法を習得し、また、率先して現場に活かすよう心掛けてきた。)
- (3) やってみたいことが叶うよう、具体案をケア会議時に提起するよう努めてきた。
- (4) 一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう、環境づくりに配慮してきた。
- (5) 個別の設えについては、在宅で過ごしていた環境に近づけられるよう努めてきた。
- (6) 入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者数と年齢

入居者数	7人	最高齢者	97歳	平均年齢	92歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	3人	1人	3.7

③ 認知症について、軽度1人、中度～重度6人。

3. 生活面について

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 生活の中で、花の手入れや洗濯物畳み、配膳などの役割を担って頂くことで、遣り甲斐や楽しみを感じて貰えるよう努めてきた。 ② 挨拶に始まり挨拶に終わる心掛けと、世間話を楽しめるような顔なじみの関係を築けるよう努めてきた。 ③ 個々に合ったレクリエーション（機能訓練）を行うよう努めてきた。 (体操、外気浴、ボール遊び、塗り絵や計算ドリル、カラオケ等) ④ 定期的に換気。また、ケア後は入居者と共に手洗いや消毒をしっかりと行うなど感染予防に努めてきた。 ⑤ 個々に合った起床や就寝介助等、その人らしい暮らしをサポートしてきた。 <p>※ 面会状況 : 面会延べ人数 215人、面会最多者 37回</p>
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> ① 食事量や体重増減等を把握。なるべく口から食べられるよう多職種と連携し、追加メニューや栄養補助食品など追加してきた。 ② 嚥下状態低下や病状進行等に伴い、食事形態の見直しに努めてきた。 ③ 安全な姿勢で食べられるよう、椅子に移る際の環境づくりに努めてきた。 ④ 起床時間に合わせ食事を提供。起床できるような声掛けにも努めてきた。



	<p>⑤ 機能低下や拘縮予防のため、離床して食事が摂るよう努めてきた。</p> <p>⑥ パタカラ体操やマッサージを継続、口腔機能の維持に努めてきた。</p> <p>⑦ 入居者同士の相性や、感染予防に留意しながら席の配置に努めた。</p> <p>※ 食事形態状況 : 軟食 4 人、キザミ食 2 人、キザミ食・軟食ハーフ 1 人</p> <p>※ 食事介助者 : 全介助 1 人、一部介助 2 人</p>
(3)入浴	<p>① 季節毎、菖蒲湯やゆず湯を楽しめるよう提供してきた。また、個々に合った入浴剤や保湿剤を使用。安全な入浴方法を見出すことも出来た。</p> <p>② 立位保持や拘縮が強く姿勢保持が困難な方でも、安全に個浴や特浴が出来るよう介助方法等を常に検討してきた。</p> <p>③ その日の状態変化に合わせ、柔軟に入浴を変更することが出来た。 (入浴拒否を訴える方に対しては、耳を傾け、声掛けする職員を変え、また、入浴時間をずらすなど、臨機応変に対応してきた。)</p> <p>④ 終末期であっても、清拭や手浴、短時間の入浴等、状態に応じ臨機応変に対応することが出来た。また、全身の皮膚の状態観察だけでなく、爽快感を味わってもらえるよう努めてきた。</p> <p>⑤ 全身観察と衛生介助を行うことで、皮膚の状態や浮腫みなど、小さな変化にも気づき、必要な処置があれば医務と協力しケアにあたることが出来た。</p> <p>※ 年間入浴者数(延べ回数) : 個別浴 352 回、機械浴 394 回</p>
(4)排泄	<p>① 尿量チェック表を活用、個々に合ったパット選定や、適した排泄交換時間などを見出してきた。(失禁や漏れがあった時は、不快な思いをさせないように、直ぐに改善策を図り、同じ失敗を繰り返さないよう支援してきた。)</p> <p>② 医務と連携し、個人に合った排泄環境を整えてきた。(なるべくトイレでの排泄を促し、スッキリ感を味わえるよう努めてきた。)</p> <p>③ 皮膚トラブルを防ぐため、陰部洗浄や保湿に努めてきた。</p> <p>④ 羞恥心は誰しもが持つ感情であることを忘れず、介助方法や申し送り方に注意してきた。(自分に置き換えて考えられるようなケアに努めてきた。)</p>
(5)認知症ケア	<p>① 入居者と顔なじみになり、“この人がいれば安心できる”“信頼できる”と思ってもらえるような関係を目指してきた。</p> <p>② 日々の変動を把握するためにも、ユニット内での情報共有や意見交換を密にすることに努めてきた。</p> <p>③ 親しき中にも礼儀あり。言葉遣いや行動には常に気を付け、相手を敬い優しさをもって支援することに努めてきた。</p> <p>④ 言葉以外の“笑顔”や“ふれあい”、“アイコンタクト”などでコミュニケーションを図りながらケアを行うことが出来た。</p> <p>⑤ 昔の遊びや聴きなれた音楽、畑づくり、行事等を通し、昔やっていたことを思い出しながら、懐かしむことが出来たと思います。</p> <p>⑥ 職員がアイデアを持ち寄り、同じ生活の中にも気分転換や刺激を与えられるような活動が出来た。(外気浴、ジュース作り、ドライブ等)</p>

4. その他の取り組み

- ① 誕生会の開催。(本人希望の誕生日ケーキの提供、カラオケ、プレゼント贈呈など。)事前に家族にも意向や内容をお知らせしてきた。
- ② アクティビティの実施。(体操、歌を唄う、塗り絵、カレンダー作りなど。)
- ③ 家料理の実施。(季節に合った簡単なものを入居者と一緒に作ってきた。)

1. 家目標と方針について

入居者のペースに合わせ、“気持ち”に寄り添った介護を志してきました。また、生活に楽しみが持てるよう、“して欲しい”ことが分かる職員を目指してきました。

- (1) 生活リハビリを兼ね、排泄や入浴、食事等の日常生活動作において、自分で出来る事は出来る範囲内でして頂いた。

(今年度入居された方で、最初は立つことも難しかったが、「トイレでスッキリ排泄したい」と云う思いがあるため、毎日、2人介助で抱え、便座に座って頂いているうちに、自から掴まり立ちが出来るようになりました。現在は、ズボンの上げ下げの介助だけで便座に座る事が出来たことは、皆の喜びになっています。)

- (2) 行事やレクリエーション等に参加できるよう支援してきた。

(“散歩に行きたい”“テレビが観たい”など、今日は何をしたのか、本人の意思を聞き取り、叶えられるよう取り組んできました。また、散歩に行く方には、スタンプカードを作り、散歩先でスタンプを押し帰ってくると云った日課ができた。また、「明日も散歩に行きたい」とのモチベーションに繋がるよう、今後も続けていきたいと考えています。)



- (3) 部屋で過ごす時間が多い方に対しては、入居される前の部屋と同じような設えを工夫することで、少しでも寛げる雰囲気味わって頂いた。ベッド上で多く過ごす方に対しては、寂しい思いをしないよう馴染みの音楽を聴いたり、外の景色を眺めたり、フロアで一緒に過ごす時間をつくってきた。



- (4) 入居者の情報を多職種と共有し、ケアに繋がられるようにしてきた。また、ケアの中では「分からない」「出来ない」「知らない」と言うことがないようにしてきた。

(職員同士で意見が噛み合わない時もあり、同じようなケアを行うことの難しさを改めて感じました。次年度は職員のコミュニケーションをより一層深め、一致団結したチームづくりを行っていききたい。)

- (5) 家入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者と年齢



入居者数	8人	最高齢者	99歳	平均年齢	92歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	—	4人	4人	4.5

- ③ 認知症については、軽度3人、中度1人、重度4人。

2. 具体的内容

<p>(1)生活</p>	<p>① 起床時間や就寝時間等、その人に合ったタイミングで過ごせるよう心掛けてきた。</p> <p>② 活動時間と休む時間にメリハリをつけ過ごしてもらうようにしてきた。</p> <p>③ 出来ることや楽しめることを把握し、編み物や塗り絵などを提供できるようにしてきた。</p> <p>※ 面会状況 : 面会延べ人数 60 人、最多者 12 回</p>
<p>(2)食事</p>	<p>その日の体調で食べられる時と食べられない時があるため、状況をしっかり把握し、無理強いせず、食べられるものを食べられるだけ摂ることを目標に介助してきた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> 水分摂取が上手く行かない時は、選んだ飲み物だけでなく、摂取する姿勢やトロミのつけ具合等、専門職の意見を参考にしてきた。 しっかり目を覚ましてから、食事を提供することに努めてきた。 常に多職種と報連相をとり、情報を共有、その都度見直しもしてきた。 誕生日や家料理提供時には食べたいものを聞き、厨房の協力を得ながらなるべく願いを叶えてあげられるようにしてきた。 <p>※ 食事形態状況 : 軟食 3 人、キザミ食 3 人、経管栄養 2 人</p> <p>※ 食事介助者 : 全介助 1 人、一部介助 2 人</p>
<p>(3)入浴</p>	<p>① その日の体調に応じ、柔軟に入浴方法を変更することができた。また、入浴は、心が安らぐ時間にしたいことから、なるべく入浴時間を制限せず、気持ちよく入浴して頂くよう努めてきた。</p> <p>② 内出血が出来易い方のケアに対しては不十分な所もあった。何故、内出血が出来たのか、今後、しっかりと対策まで踏まえケアを行う。</p> <p>※ 年間入浴者数（延べ回数） : 個別浴 350 回、機械浴 400 回</p>
<p>(4)排泄</p>	<p>① トイレで排泄したいとの思いを叶えてあげられるよう努めてきた。</p> <p>② 個々に合ったパットの選定を行ってきたが、なかなかパターンが掴めず難しさを感じることもあった。</p> <p>③ 排便コントロールは難しいため、看護師と相談しながら行ってきた。</p> <p>※ 排泄介助内訳 : トイレ介助者 3 人、オムツ交換者 3 人、 2 人介助 1 人 (オムツ使用者からトイレ介助へ移行人数 1 人)</p>
<p>(5)認知症ケア</p>	<p>認知症だからしょうがないと諦めるのではなく、認知症状も含めその人だと受け入れ、毎日のケアを通し、生活に寄り添った関係を築けるよう努めてきた。</p> <p>※ 認知症の症状には幻視や幻聴が見える方もいる。不穏や不安な時に傍にいて、“安心して過ごせるよう”優しい声掛けと支援に努めてきた。</p>

1. 家目標について

楽しい食事や、温かいお風呂、居心地の良い場所、顔なじみの方との会話などを掲げ、その時、その時を大切にしながら共に過ごしてきました。

2. 具体的な計画について

- (1) 常に“敬い”や“思いやる心”を持って接してきました。また、負担の少ない介護（福祉用具の使用や排泄時間の見直し、パットの変更等）にも取り組んできたことで、入居者から「居てくれるだけで安心する」との声や笑顔を見て、職員のモチベーションに繋がっていたことも事実です。
- (2) 生活リズムに応じ、居室やフロアで自由に過ごせるような環境をつくることで、ゆったりと寛げる“場”が提供できたと思います。
- (3) 面会では多く家族の方に足を運んで頂き、大切な時間を過ごして頂けたことと思います。また、面会時に近況を報告することで、話が弾み信頼関係も築くことが出来たと思います。
- (4) 変化に気付ける目と耳を養いながら、自ら情報を収集、共有し、意見を出し合いながら、常に協力する姿勢を保ち支援に努めてきました。
- (5) 寝具も季節や室内温度等に応じ、適宜、対応してきました。
- (6) 入居者状況 (R8.3.31 現在)

① 入居者数と年齢


入居者数	8人	最高齢者	104歳	平均年齢	90.3歳
------	----	------	------	------	-------

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	1人	5人	2人	4.1

③ 認知症については、軽度2人、中度～重度6人。

3. 具体的内容

(1)生活	<p>① 個々の好みや性格を理解し、また、その“思い”を汲み取り、自己決定と現有能力が活かされるようケアに努めてきました。</p> <p>② 申し送り等の情報をスムーズに共有できるよう、分かり易く簡潔に書くよう心掛けてきたつもりですが、説明が長くなり、上手く伝わらないこともありました。</p> <p>③ アクシデントやヒヤリハット、皮下出血等については、速やかに報告や記録が書けた。しかし、慣れにより危険予知が薄れてしまうこともありました。</p> <p>④ 面会時に、近況報告や誕生会の連絡等を行い、家族との繋がりを大切にしました。また、厨房の協力により、本人希望の誕生日ケーキや、家料理、行事食等を提供することで楽しい思い出が出来ました。</p> <p>⑤ 季節に応じ、ゆったりと快適に過ごせる設えや環境づくりを適宜行えました。</p> <p>⑥ 穏やかな気持ちでケアに心掛けてきましたが、つい余裕が無くなり早口や強い口調になってしまった事があります。反省すべきことでもありました。</p> <p>⑦ ユニット内の感染予防をはじめ、フロアや居室の整理整頓、清潔保持、消臭対策にも努めてきました。</p> <p>⑧ 本人の要望や体力を考慮し、ベッド上で食事や休める時間等を確保してきました。更に、クッション等も使用し、車椅子上でも安楽な体位になれるよう工夫してきました。</p> <p>※ 面会状況 : 面会延べ人数 139人、最多者 23回</p>	
(2)食事	<p>① 「食べたい」と感じられるように、目の前で配膳、献立の説明。更に、本人に伺いながら配膳をしてきました。</p> <p>② 食事を楽しめるよう、メニューに合った食器の選定、盛り付けの工夫、目の前で切り分けを行ってきました。</p> <p>③ 安全に食事が摂れるよう、本人に合ったテーブルの調整、食べ易い体位等で摂れるようにしてきました。今後も、自分で食べられる喜びを感じて頂けるよう支援していきたい。</p> <p>④ ランチョンマット等を使用することで、見た目にも食欲をそそるよう改善に努めてきました。</p> <p>⑤ 義歯の有無による咀嚼の変化や、嚥下機能の低下に伴う摂取状況を、速やかに厨房に報告し食事形態の変更や、ケア会議にも諮ってきました。</p>	

	<p>⑥ ティータイム時の飲み物は好きなものを提供。また、「飲み物は冷たい方が好きか、温かい方が好きか、甘い物はどんなものが好きか」など、会話する機会も増えてきました。</p> <p>⑦ 毎食後の口腔ケアを実施。口腔内の清潔保持と状態観察に努めてきました。また、歯科医師による衛生指導を受け、これまで難しいと感じていた方のケア方法を学ぶことができたことは大きかった。これにより用具等も見直すことが出来ました。</p> <p>※ 食事形態状況 : 軟食6人、超キザミ食1人、ゼリー食1人 ※ 食事介助者 : 全介助1人、一部介助1人</p>
(3)入浴	<p>① 着替えを一緒に選ぶことで、これから入浴する雰囲気づくりができた。また、工夫した声掛けにより入浴拒否が少なくなりました。</p> <p>② 好みの入浴時間や湯加減等を確認、更にカーテンや仕切りを使うことで羞恥心にも配慮してきた。</p> <p>③ 体調変化時は、介護用品や入浴形態を見直し、また、状況により2人対応の介助で双方の負担軽減に繋がった。</p> <p>④ 個々に合った入浴剤やボディクリーム等を使用し、皮膚トラブルに発展しないよう取り組むことができました。また、入浴時に異常を発見した時も、直ぐに看護師に報告すると共に、申し送りに繋げてきました。</p> <p>⑤ 菖蒲湯、ゆず湯を提供。季節やお風呂を楽しめる工夫を行ってきました。</p> <p>⑥ 冬季は、室温調整や洗身時に足浴を行うことで、ヒートショックを防いできました。</p> <p>※ 年間入浴者数(延べ回数) : 個別浴 511回、機械浴 267回</p>
(4)排泄	<p>① 申し送り時は隠語を使用。排泄時にはカーテンや扉を閉め羞恥心に配慮してきました。</p> <p>② 排泄チェック表を活用し、個々に合ったトイレ誘導時間や、尿量に応じたパットの選定が出来た。更に、介助内容を記した用紙等を随時更新、誰が対応しても分かり易いよう工夫に努めてきました。</p> <p>③ 看護師の協力のもと、食物繊維を用いたりすることで、排便コントロールができたり、立位が困難な方に対しても、可能な限り一日一回は便座に座って頂くことで、爽快感を味わって頂けたと思います。</p> <p>④ 漏れ等が生じた場合、漏れた原因を調べ、見守り時間帯やパットの選定を見直してきました。</p> <p>⑤ 尿量に応じたパット選定。また、夜間帯の安眠確保に取り組んでいます。</p> <p>※ 排泄介助内訳 : トイレ 一部介助者4人(1日平均8回) ベッド上 全介助者4人(1日平均4~5回)</p>
(5)認知症ケア	<p>① 要望や行動に対し否定をせず、言葉の言い換えで対応してきました。</p> <p>② 毎回同じ言葉が聞かれると「またか…」と聴き上手になれない時もありました。また、対応に不安を感じた事は、職員間で常に話し合い対応してきました。</p> <p>③ 会話をする時は、視線を合わせ、笑顔を引き出せるよう努めてきました。また、孤立しないよう声掛けもしてきました。</p> <p>④ 家料理や作品作りを協働で行い、関係性を深めてきました。</p> <p>⑤ 一緒にテレビを観たり、お茶をしたり、折り紙や塗り絵をするなど、生活スタイルに合わせ寄り添うことが出来たと思います。</p>



4. その他の取り組み

- ・ 誕生会は、厨房の手作りケーキや家料理で大変喜んで頂けました。(誕生会の進め方は、家族と検討してきました。)
- ・ 家の花壇で野菜作りをしてきました。(じゃがいもやかぼちゃなどは、計画的に出来ませんでした。次年度は実施したいと思います。)
- ・ 昼食前の口腔体操「あいうべ～」を、早・遅番が協力して行ってきました。


1. 年間目標について

- (1) 持病があっても健やかで快適な毎日が送れるよう、苦痛を取り除き、「して欲しいことは何なのか」を常に考え支援してきた。
- (2) 感染症対策については、実演を交え勉強会をすることで、職員の関心を深めることができた。また、必要に応じポスターの掲示や周知をしてきた。更に、それらに係る研修会にも（zoomを含む）積極的に参加してきた。
- (3) 新型コロナウイルスについては、これまで同様、感染防止に努めることはもちろん、情報や通知等を漏れなく収集し、適宜、現場に周知してきた。
- (4) 積極的に入居者とかかわる中で『いつもと違う』と云うことに、気付ける人間性と専門性を持ち備えた看護師になれるよう互いに日々スキルを磨いてきた。
- (5) 終末期においても施設生活が安心して送れるよう、多職種間との協働体制を整え、必要とされる知識や技術についても共に学習し、最期まで寄り添ってきた。
- (6) 職員の健康管理にも留意し、定期健診は基より、個別の相談などにも対応できるよう専門知識の向上と時節に合った管理指導に努めてきた。



2. 入居者及び職員の健康管理について

<p>健康管理について (入居者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 健康診断 令和7年5月9日 入居者 46名受診、うち有所見者 35名。要精検者については診察時に確認、適宜腹部CTなどの検査をしている。 ➢ インフルエンザ予防接種については、11月21日に43名の入居者に接種。 ➢ 入居者の新型コロナ罹患者は0名。 ➢ 口腔衛生管理については、歯科医である南相馬市の熊耳医師に依頼。歯科衛生士の指導を受けるなど、医師にも定期的に診ていただいている。また、年2回口腔衛生指導を、実際にケアに携わる職員向けに開催した。 	
<p>体調管理について (職員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護職員の平均年齢も高く、柔軟性と筋力の低下が目立ち、体調不良を訴える職員が目立っている。 ➢ 腰痛対策については、予防法と介護技術の修得及び、福祉用具の購入（個人購入も含め）腰部にかかる負担軽減に努めた。 ➢ 職員のインフルエンザ罹患者は0名。新型コロナについては罹患者4名を確認。が、これまでの知識を生かしたことで感染源の拡散には至らなかった。 	
<p>健康診断について (職員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 健康診断1回目 令和7年5月9日 44名が受診。 2回目（夜勤に従事する者のみ）令和7年11月17日に19名が受診。 ➢ 職員の3分の1が再雇用となっている。についてはその殆どが何らかの慢性疾患があり、内服薬の処方を受けている。他、それぞれ指摘された事項について相談と病院受診の必要性を話す。 ➢ 腰痛検査（年2回）については、問診票で調査。半数近くは接骨院などに通院しているのが実情。 “総合的に心配なしと判断”という結果が殆どであった。 	

受診について	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 救急車搬送は0件、介護と看護間の連携と情報を共有することを次年度も目標とする。 ➤ 重症度の高い入居者についても主治医の指示の下、家族への連絡を密にするなど信頼関係を築くことができた。 ➤ 診療については、いいたてクリニックから毎週火曜日に回診と定時薬の処方を受けていた。慢性疾患のみならず、臨時薬や点滴の処方もあり、施設内で寛解できたことは何よりであった。
健康教育と学生教育について	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 福島医科大学作業療法科より、実習生の受け入れを行い、高齢者介護の基礎の習得に働きかけた。 ➤ 感染症委員会（BCP）には固定した看護師が就き、施設内研修として年に2度開催。 ➤ 4月には吐物処理（演習の実施）、年明け3月には感染者発生時の対応を考え、そのゾーニングの方法、物品保管場所の確認を、演習を交え行った。 

3. 終末期ケアについて

看取りについて	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 12名の方が施設内の自分の居室で永眠されている。酸素吸入など医療的な処置があっても最期まで施設内で過ごさせてあげたいという介護職員がいたからこそできたことだと思っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅酸素療法3名 ・ C-PAP（睡眠時無呼吸症候群の酸素療法）1名 ➤ 主治医である本田医師には毎週火曜日の定期診療に加え、深夜早朝にもかかわらず対応していただき、最期の確認と家族への説明をして頂いた。年間30回を超える往診もしていただく。 ➤ 感染予防策として制限付きの面会の中、最期だけはベッドサイドで顔を見てもらうことを可能とした。
---------	--

4. 通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
あづま脳外	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	4人
いいたてクリニック	1	0	1	1	3	2	0	3	0	1	1	1	14人
（本田医師往診）	0	18	2	2	4	1	1	6	1	0	1	0	36人
くまがみ歯科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1人
（熊耳先生往診）	5	5	5	4	5	4	4	0	5	4	4	7	52人
府野歯科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2人
南相馬市立病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人

*11月については、風邪などの感染症が多発したことで、口腔衛生指導は会議室での開催にとどめた。

令和7年度 厨房事業報告書

1. 基本方針について

「一人ひとりの想いに応えながら、美味しく食べて笑顔で暮らせるように」を掲げ、入居者の皆さんに美味しく食べて頂き、笑顔を引き出せるよう努めてきた。また、毎日の食事が豊かになるよう取り組みながら、職員の対応力も高めてきた。

2. 実施内容

(1) 年間実施食数

食種 食数	経口食	経管 栄養	職員食	検食	家族食
年間食数	43,342	4,210	8,138	1,095	—
1ヶ月平均	3,611.8	350.8	678.1	91.2	—
1日平均	118.7	11.5	22.2	3.0	—
年間総食数	56,785食				

(2) 年間食材費

食材費	特養
平均(1日1人)	874.6円
食材費総額	16,556,052円

(3) 年間平均食事栄養量

栄養量	熱量	たんぱく質	脂質	塩分	炭水化物
特養	1,413kcal	52.4g	26.6g	6.5g	351.5g

(4) 栄養ケアマネジメント

事業所	対象者	実施期間	見直し期間
特養	入居者全員	通年	3ヶ月。但し、食事形態に変更があった場合は、その都度随時見直し対応
(令和8年3月31日現在)			
アセスメント結果 44人	低リスク (問題ない者) 18人	中リスク (瘦傾向・経管栄養者) 26人	高リスク (食事中止、点滴等) 0人

(5) 食事形態

入居者44名(令和8年3月31日現在)						
軟食	キザミ食	ソフト食	ペースト食	ゼリー食	経管栄養	食事中止、点滴等
24人	11人	0人	1人	5人	3人	0人

3. 年間実施行事食

月	行事	月	行事	月	行事
4	お花見	8	お盆	12	クリスマス会、餅つき、大晦日
5	母の日、柏餅作り	9	納涼祭、敬老会、秋彼岸	1	新年会、七草、小正月
6	父の日	10	開所記念日	2	節分
7	七夕、土用の丑	11	運動会&芋煮会	3	ひな祭り、非常食訓練、春彼岸

4. 出張料理

各家年1回、計6回実施

実施日	家名	内容	実施日	家名	内容
1.21	ぬくもり	焼そば、たこ焼、豚汁、みかん	2.24	せせらぎ	おでん、焼おにぎり、鶏と芋のピリ辛、汁
1.27	だんらん	銀たら煮魚、天ぷら白菜漬、みそ汁	3.8	こもれび	焼肉、焼おにぎり、漬物、わかめスープ
2.10	ひだまり	生姜ご飯、南瓜天ぷら、だし巻卵、すいとん汁	3.18	やすらぎ	手まり寿司、茶碗蒸し、漬物、すまし汁



5. 食事サービスの具体的内容

① 美味しい料理、好きな物が食べられるように

- ・ スクリーニング、アセスメント、栄養ケア計画など個別に実施。必要な栄養確保と経口摂取を維持できるよう、多職種協働で状態を把握し栄養改善に努めてきた。
- ・ 定期的なモニタリングや評価、判定を実施。必要に応じ見直しも行きLIFEに反映してきた。
- ・ 次年度は、食事量アップに繋がることを目標に、好きな物やクエスト食の再開に取り組んで行く。

② 楽しみながら美味しく食べられるように

《行事食》

- ・ 食材で季節感を演出したり、見た目も良く仕上げ皆に喜んでもらえたと思う。ただ、内容が前年と同じこともあり、次年度は新しいメニューに取り組んで行く。
(料理に添える折り紙飾りは大変好評なので継続して行きたい。)



《誕生会》

- ・ 回数を重ねてきたことにより、細やかな希望にも対応でき、仕上がりも良く、入居者の大切な日のお祝いケーキを提供することができたと思います。また、ケーキを作った担当者が、一緒にお祝いすることで、生の声や反応が見られ、遣り甲斐にも繋がっている。
- ・ 職員の皆がお祝いケーキが作れるようシフトを配慮していく。また、お祝いケーキが誕生会で喜ばれ話題となるよう、今後もスキルアップに励みたい。



《出張料理》

- ・ 一緒に野菜を切り、おにぎりを握り、目の前で調理することで家庭的な雰囲気となり、生き活きとした笑みが見られた。また、出張料理を提供するにあたり家職員と相談することで、家と厨房の交流を深めることができた。
- ・ 一緒に作業を通し、職員も楽しめ遣り甲斐にも繋がっている。

《ティータイムおやつレク》



ティータイムのおやつレクでは「良いにおいがする」「凍み餅食べたい」「昔よく作ったなあ」など、昔話に花が咲き作りたてを喜んで頂けた。また、生の声を聞くことで交流の大切さを実感。入居者の「おいしいね」の笑顔を励みに今後も提供していく。

③ 見た目からも食べたい気持ちを引き出せるように

- ・ 食欲が湧くよう見た目にも配慮しながら、状態に合った食事形態で提供してきた。
- ・ 入居者の好みや要望を取り入れながらメニューに変化をつけてきた。ただ、魚や煮物が多かったことから、皆に喜ばれるメニューの内容にして行きたいと思います。

④ 安心、安全に食べられるように

- ・ 体調に合わせ、少量でも負担なく栄養が摂れるよう栄養補助食品類を活用してきた。
- ・ 食べやすいよう材料の調理方法や、スムーズな定時提供に努め、直営ならではの柔軟な対応ができた。
- ・ 真空パックの活用で作業の効率を高めてきた。また、食材の有効活用（SDGs）や、非常食の活用（BCP）等、災害時にも備えいつでも食事提供できるようにしてきた。

(非常時備蓄70人×7日分の食料。飲料水、栄養食品、使い捨て食器等を整備。)

- 衛生管理の徹底が基本。食中毒や各種感染症（コロナ、インフルエンザ、ノロウイルスなど）の予防や食の安心・安全に努めてきた。

⑤ 経営面も考慮しながら食事提供できるように（コスパ、タイパを上げられるように）

- 出来るだけ厨房機器を応用しながら作業効率を高めてきた。
- 物価高騰が続くと予想されるため、食材の有効活用とコスト削減に努めていく。また、生ごみ処理や害虫駆除など自分達で出来ることは自分達で行ってきた。

6. 一年をふり返って

- 厨房職員2名の入退があり、慣れない中での食事提供に紛糾しながら、皆で協力し取り組んで来た一年だった。また、職員が少なかった期間でも、互いにシフト協力をしたり、調理工程等を見直してきた。
- 新採用職員もいることから、一通りの業務ができるようコミュニケーションを図りながら指導等を行ってきた。しかし、職員間の連絡不足や、配膳の間違い、食材の発注ミスによる調理や献立内容を変更する場面も多々あった。今後は提供前の再チェックや不十分な点を改善して行きたい。
- 入居前は食事が全介助で少食だった人でも、入居されてから、徐々に自から食器をもって完食できたり、刻み食から普通食（軟食）に移行したり、また、嚥下機能低下で食することが難しく点滴対応だった人が、口から食べられる状態にまで回復されるなど驚かされるケースが多かった。

この驚きは、看護師をはじめ介護職の手厚いケアの賜物で本当に凄いなと思った。

“もう食べるのは難しい”としてしまうのではなく、“どうしたら食べられるのか”

“これなら食べられるかも”と、可能性を探りながら見てきた成果だと。

改めて食事の大切さや可能性があることを実感できた年でした。

厨房も、看護師や介護職と協力し「いいたてホーム」のケアの一端を担えるよう取り組んで行きたい。

- 次年度から新体制となるため、皆で話し合いを重ね、より効率化を図り、新しさを感じつつ“美味しく楽しい時間”となるような食事提供に努めたいと思う。

令和7年度 いいたて在宅介護支援センター
指定居宅介護支援事業所事業報告書

1. 基本方針について

介護保険の基本理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」「自分らしい生活の継続」及び「自立支援」を基本とし、利用者や家族の意向を踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を作成し、利用者並びに家族は勿論のこと、多種多様な事業者や関係機関と連携しながら、家族との繋がりも継続できるよう支援を行ってきた。

(1) 信頼関係の構築について

ケアプランを立案するにあたり、利用者とその家族の方との信頼関係を得るためコミュニケーションを図り、また、居住地の環境把握にも努めながら、サービス事業者とも連携を密にし、迅速な対応に努めてきた。

(2) 課題を正確に捉えるについて

生活環境の変化や、利用者及び家族の方が抱える心配ごと、また、不安な点を捉え、予測される課題についても事前に検討を行ってきた。

(3) 情報提供について

利用者や家族の方が必要としている介護保険制度を含めた様々な情報を提供。避難先でも利用できるサービスなど、地域資源活用等についても情報提供を行ってきた。

(4) モニタリングを行うについて

常に状況を把握し、状態にあった支援が提供できるよう努めてきた。また、モニタリングについては、訪問以外にも電話などで、相談や状況把握等、できる限りの活動を行ってきた。

(5) 利用者の立場に立つについて

常に利用者とその家族の方の立場に立ち、対応することに努めてきた。

『評価と課題』

サービス提供事業者や関係機関等との情報共有を図り、身体状況の変化や生活状況及び家族の健康状態等も把握、より適切な対応ができるよう努めてきた。

今後、より一層の介護保険給付サービスの適正化を図って行くことが必要となっている。



2. 具体的な施策について

《ケアマネジメントの充実》

(1) アセスメント（課題分析）について

利用者及び家族の方の希望等を把握し、解決すべき課題や日常生活に対する可能性を抽出、それらに基づく目標を導き、また、得られた情報はケアマネジメントの中核として状態像を十分に把握してきた。

(2) サービス担当者会議（ケアカンファレンス）について

利用者及び家族の方、サービス提供事業所が一同に会し、日常生活についての希望や課題を直接お聞きすることで、ケアチーム全員がその思いを共有できると共に、利用される側にも安心感を持てるようにしてきた。



(3) モニタリング（サービス実施状況の把握及び評価）について

モニタリングは、利用者に対する継続的なアセスメントでもあり、利用者や家族の方の希望や苦情を、具体的に口に出して言えるような関係を築いてきた。また、サービスの実施状況も確認してきた。

(4) 居宅サービス計画の見直し（再アセスメント）について

モニタリングの結果から、変更の必要性が生じた時には、内容を確認し利用者の状態変化やニーズを把握し、見直しをしてきた。

(5) 給付管理について

サービス提供事業者からサービスの実績報告を受け、内容を確認し「給付管理票」を作成し翌月10日までに県国民健康保険団体連合会に提出してきた。

令和7年度給付管理請求一覧

月	件数	介護報酬額	月	件数	介護報酬額
4月	46件	643,400円	10月	44件	594,440円
5月	45件	613,670円	11月	44件	590,700円
6月	44件	601,180円	12月	42件	562,240円
7月	45件	606,930円	1月	37件	502,530円
8月	45件	610,670円	2月	38件	514,280円
9月	42件	565,720円	3月	38件	508,280円
合 計			510件 6,914,040円		

『評価と課題』

サービス提供事業所との連絡調整を密に行い、状況に応じた適正なサービス利用に向け調整を行っています。県内の介護保険サービス提供事業者は、慢性的な人員不足状態が続いている状況であります。

今後も利用者や家族の方の希望を受け入れながら、給付サービスの適正化を図り、各種事業所との連絡調整を図っていきたく思います。

3. 重点事業目標

(1) ケアプランデータ連携システム導入について

- ・ 連携システム全体概要と機能についての情報把握をしてきた。
- ・ 連携システムの操作方法についての勉強会を行ってきた。
- ・ 介護サービス事業所と連携システム導入タイミングの情報共有をしてきた。

『評価と課題』

- ・ 現在、連携システム全体概要と機能、操作方法についての勉強会の最中であり、次年度中にシステムの導入が可能となるよう、介護サービス事業所と連携を図っていく必要性を感じています。

(2) 業務継続計画（BCP）見直しについて

- ・ 地域の避難方法や避難所の情報を把握してきた。
- ・ 各事業所が定める基準について、事前に情報を収集してきた。
- ・ 災害発生時の対応について、情報の収集方法や連絡調整を見直してきた。

『評価と課題』

- ・ 現在、業務継続計画について、適宜、見直しを行っている状況であり、また、行政をはじめとした関係機関との情報の共有を重ね業務継続計画を更新していきたい。

(3) 災害時リスク・アセスメントシートの作成について

- ・ 災害時の課題を整理し、医療機関や居住対策、避難支援等を検討してきた。
- ・ 優先的に避難を要する利用者や、安否確認を優先する利用者のピックアップをしてきた。

『評価と課題』

- ・ 現状として、当村においての居住地や家族構成等、状況把握が困難なため、災害時のリスクの課題整理について見直しを行っている。今後も関係機関との情報共有を重ね避難等の計画に繋げたい。

(4) 利用者及び家族に対し、居住区域の福祉サービス情報提供について

- ・ 希望するサービスを把握し、実際に居住する地域で対応可能なサービスについて、介護保険サービス以外のインフォーマルサービスを含め情報提供を行ってきた。

『評価と課題』

- ・ 居住地域ごとに、サービス種類等の把握を行い、利用者や家族に適していると思われるサービスについて適宜情報提供を行うことができた。

(5) 毎月のモニタリング以外でも常時の状態把握について

- ・ サービス提供事業所や医療機関等と連絡調整や状況確認を行うことにより、本人の状態や家族の状況についての把握に努めてきた。

『評価と課題』

- ・ 定期的な訪問活動の他にも、関係機関と連携を図り、利用者や家族の支援活動を適宜行ってきた。今後も継続的な支援は必要と思われる。

(6) サービス利用事業所からの情報収集について

- ・ 利用者及び家族の状況について、直接、接する機会の多いサービス提供事業所からの情報を基に、状況に適した支援を行うことができた。

『評価と課題』

- ・ 状況を早く把握できることで、状況に応じた支援活動ができたことは評価できる。常時情報を収集することにより、問題の早期発見による早期解決を図って行きたい。

(7) 医療機関との連携について

- ・ 医療機関との連携強化のため、入退院時の情報共有のため、相双圏域と県北圏域双方の入退院時調整ルールに基づき、3日以内に情報を作成提出し、其々の医療機関と利用者の情報について共有を図ってきた。
- ・ 村内に常駐する医師や訪問看護と連携を図ることにより、利用者の情報についてこれまで以上に共有することができた。

『評価と課題』

- ・ 入退院時調整ルールについては、運用が定着し関係機関に理解して頂けるようになり、今後も継続した活用が施行されると思われる。
- ・ 医師が常時側にいるという安心感は、利用者及び家族をはじめ、支援する介護支援専門員にも安心感があり、心強く感じている。

(8) 要介護認定調査の実施。

- ・ 飯舘村の委託を受け、認定の更新を希望する方の要介護認定調査を実施してきた。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
在宅調査(件)	3	3	2	2	4	1	3	3	4	2	1	4	32
施設調査(件)	3	3	4	4	2	5	3	3	2	4	5	2	40
合計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72

『評価と課題』

- ・ 事前の連絡調整を行うことで、遅滞することなく認定調査を行うことができた。

4. 介護支援専門員の資質・専門性の向上について

(1) 専門知識及び技術向上に努めてきた。

研修会に参加し、周知徹底に努めてきた。

- ・ 原町方部介護支援専門員連絡協議会へ参加
- ・ 飯舘村地域ケア推進会議へ参加
- ・ 飯舘村地域包括支援センター運営協議会へ委員として参加
- ・ 福島県介護支援専門員協会、法定研修グループへ参加(延べ12日間)

(2) 不満や苦情があれば、迅速かつ適切な対応が図れるよう努めてきた。

- ・ 訪問時本人及び家族の不安や不満等について確認し、サービス事業所へ報告と改善を促しながら質の向上に取り組んできた。

(3) 秘密保持厳守及び個人情報の取り扱いを適正に行ってきた。

- ・ 個人情報等の取り扱いについては、特に慎重に対応するよう取り組んできた。

(4) 困難事例ケース検討及び新規ケースの情報の共有することで、事業所内で、そのケー

スについてのケアに取り組んできた。

- ・ 担当者が詳細な情報を報告し共有できるよう取り組んできた。

『評価と課題』

- ・ 通常業務のほか、県介護支援専門員協会の理事として、郡山市に出向き、国保連合会からの業務委託のケアプラン点検業務等に参加してきたのは、今後の業務遂行に非常に有意義であった。

5. 在宅介護への支援について

(1) 介護保険制度及びサービス内容の周知を行ってきた。

- ・ サービス利用については、利用者のニーズに合わせ、それぞれの居住地で希望するサービスが提供できるよう取り組んできた。

(2) 介護方法及び社会資源の利用についての周知を行ってきた。

- ・ 介護に関わるアドバイスや認知症利用者等の対応方法等を行ってきた。また、居住地で利用可能な社会資源について説明を行ってきた。

『評価と課題』

- ・ 当事業所契約者の7割以上が村内在住で、在宅サービスを利用している状況にある。村内でのサービス利用について、訪問看護と福祉用具利用に関しては問題なく対応が可能となっているものの、その他の訪問介護や訪問入浴、通所介護については、未だ川俣町を中心に近隣自治体の事業所に依存している状況にあり、サービス利用が十分であるとは言い切れない。
また、在宅サービスにおいては、利用者などの状況により需要の種類や量が大きく異なってきますが、無くとも良いと云うものでもありません。住民が高齢になっても安心して生活できるサービスを構築する必要があると思われる。

6. 各関係機関との連携の強化

(1) 地域包括支援センターをはじめ、各関係機関との連携を密に、ニーズに沿ったケアマネジメントが行えるよう取り組んできた。

- ・ 他市町関係機関と連携を図りながら、ケアマネジメントに反映できるよう取り組んできた。

(2) 困難事例の検討と改善について

- ・ 困難事例については、本人や家族はもちろん、地域包括支援センターや社会福祉協議会、各市町村のサービス提供事業者とも連携を図り、改善に向けて取り組んできた。

(3) 地域ケア会議への参加

- ・ 地域ケア会議に出席し、各種機関が抱える困難な課題や解決方法等について意見の交換を行い情報の共有を図ってきた。

『評価と課題』

- ・ 要介護者世帯の困難事例については、行政をはじめとした関係機関で連携を深めていますが、要介護者に係る困難事例は介護支援専門員に任せられてしまうのが実情です。困難事例には介護に関する事だけではなく、虐待（金銭搾取・放置等）や貧困、精神疾患（本人及び家族）、宗教など様々な課題があります。今後も各種機関と継続的な協力体制が必要である。
- ・ 居宅支援事業所の管理者は、主任介護支援専門員が必須となっており、資格取得まで数年の経験を要することから、後継者育成が急務でもあると思われる。

1. 基本方針について

ICTを活用した業務の効率化については、ホームのみならず事務室においても、システム導入により、事務の流れや時間の短縮など効率化に繋がった。

また、人材確保については、PR活動（広報誌・HP・インスタ）や人材紹介事業所等を積極的に活用してきたことで、十分とは言えないものの人材確保に繋がっている。

2. 具体的な内容

（1）OA事務機器の関係システムの導入について

新システム（会計、給与、勤怠等）を導入したことにより、職員の勤怠（出退勤、有休、残業等）は電子申請となり、ペーパーレス化はもとより、データ管理が容易になり、業務時間の短縮に繋がっている。

また、給与明細等も個々のスマートフォンから確認できるようにしてきた。

（2）業務の効率化（新システムの切り替えによる）について

- ・ 事業所間の業務内容や情報等がPCで確認できるため、書類準備が容易であり、また、担当者との遣り取り時間の短縮等に繋がっている。
- ・ インカムを通しての伝達により、呼び出しの手間が省け、且つ、同時に皆に伝えることもでき、無駄な動線がなくなり時間の短縮にも繋がっている。
- ・ 入居者に係る文書等の電子化も図ってきました。（入居者に係る書類の原本等は、身元引受人等へ送付。コピーしたものをデータ化し管理。）

（3）書類管理や点検、見直しについて

システム導入により、文書取扱規程の点検や関係マニュアルの見直しを、適宜、行ってきました。

（4）後方支援の役目を担うについて

全事業所が新しいシステムに切り替わり、関係するスタッフがスムーズに遂行できるよう、操作関係のサポートにあたってきました。



（5）財源の維持確保について

① 適切な予算の執行

- ・ 業者委託に頼らず施設内で出来るものは施設で行い無駄を省いてきた。（環境整備、室内の消毒等の委託を自分達で行う。）

② 補助事業の活用

事業名等	金額
福島県被災地介護施設運営補助金	6,713,000 円
福島県社会福祉施設等物価高騰対策事業補助金	1,222,000 円
福島県介護人材確保・職場環境改善等事業補助金	1,271,682 円
福島県被災地介護施設再開等支援事業	662,000 円
福島県結核予防事業	54,188 円
社福等利用者負担軽減事業助成金	175,030 円

(6) 人材確保について

人材確保に繋がる取り組みを行ってきた。

- ・ 施設のPRや職員募集等をHPやSNSで行ってきた。
- ・ 人材紹介事業所の活用

(令和7年度採用)

種 別	採用者数
人材紹介事業所	5名
ハローワーク	2名

3. その他

- ・ 必要時に必要な内容を伝達できるよう、適宜、事務所内での勉強会を開催。
- ・ BCP訓練の参加：地震被害により電話回線不通想定。(二次避難後)



(屋外から携帯で応援要請)

令和7年度 研修一覧

研修期間	研修者氏名	所属	研修名	研修場所	時間	開催者	内容
4月4日～4月4日	1日間	佐々木裕行	特費 介護ICT体験フェアin福島	ウィル福島アクティおろしまち	10:00～16:30	キャンノシステムアンドサポート(株)	ICT機器と介護記録ソフトの連携を体験・体感他
4月4日～4月4日	1日間	佐藤 義幸	特費 介護ICT体験フェアin福島	ウィル福島アクティおろしまち	10:00～16:30	キャンノシステムアンドサポート(株)	ICT機器と介護記録ソフトの連携を体験・体感他
4月24日～4月24日	1日間	佐々木裕行	特費 ふくしまユニットケア協議会役員会	特費いずみの郷	13:00～14:30	ふくしまユニットケア協議会	令和6年度事業報告について他
5月1日～5月1日	1日間	嶋原やすえ	特費 第10回総会及び施設長事務長研修会	ビックバレットふくしま	13:00～16:00	福島県老人福祉施設協議会	令和6年度事業報告について他
5月1日～5月1日	1日間	佐藤 美幸	特費 令和7年度介護施設における安全対策担当者養成研修	ホーム(会議室)	4時間30分	全国老人福祉施設協議会	介護事故防止に向けたリスクマネジメント・安全対策担当者に求められる視点とリスクヘッジのかけ方他
5月5日～5月5日	1日間	佐藤 義幸	特費 令和7年度介護施設における安全対策担当者養成研修	ホーム(会議室)	4時間30分	全国老人福祉施設協議会	介護事故防止に向けたリスクマネジメント・安全対策担当者に求められる視点とリスクヘッジのかけ方他
5月29日～5月29日	1日間	菅野ゆかり	在介 令和7年度第1回地域ケア会議	いちばん館	13:30～15:30	飯館村地域包括支援センター	個別ケースの検討について他
6月2日～6月3日	2日間	菅野 明洋	特費 令和7年度職場研修担当職員研修	福島県総合福祉センター	9:20～16:30	福島県社会福祉協議会	これからの福祉人材育成と職場研修について他
6月4日～6月4日	1日間	浦住すみい	特費 令和7年度施設ケアマネ研修会研修会	ビックバレットふくしま	10:00～16:00	福島県老人福祉施設協議会	カスハラ理解を深めるために他
6月5日～6月5日	1日間	富澤 亨太	特費 令和7年度社会福祉施設等職員初任者基礎研修(オンライン研修)	ホーム(会議室)	13:10～16:10	福島県社会福祉協議会	社会福祉施設等の職員としての心構え他
6月6日～6月6日	1日間	菅野 若菜	特費 令和7年度高齢者介護施設等における感染対策研修	福島県看護会館みらい	10:00～16:00	福島県看護協会	高齢者介護施設等と医療機関の感染対策の違い他
6月10日～6月10日	1日間	佐々木裕行	特費 令和7年度社会福祉法人等代表者会議	ホーム(会議室)	13:15～15:30	福島県社会福祉課	監査の根拠法令等及び県監査要綱の概要他
6月10日～6月10日	1日間	嶋原やすえ	特費 令和7年度社会福祉法人等代表者会議	ホーム(会議室)	13:15～15:30	福島県社会福祉課	監査の根拠法令等及び県監査要綱の概要他
6月10日～6月10日	1日間	佐藤 義幸	特費 令和7年度社会福祉法人等代表者会議	ホーム(会議室)	13:15～15:30	福島県社会福祉課	監査の根拠法令等及び県監査要綱の概要他
7月10日～7月10日	1日間	北里真由美	特費 令和7年度相相地区集団給食研究会第2回研修会	原町生涯学習センター	13:30～15:00	相相地区集団給食研究会	クックチル・ニュークックチルについて他
7月15日～7月16日	2日間	佐藤 義幸	特費 2025年度ユニットケア施設管理者研修	ホーム(会議室)	9:00～17:00	日本ユニットケア推進センター	施設管理者が自らの役割を理解し、マネジメントに繋げる他
7月18日～7月18日	1日間	佐藤 義幸	特費 令和7年度相馬地方防火安全協会総会及び表彰式	藤倉商店	17:30～20:00	相馬地方防火安全協会	代議員会、優良事業所表彰式他
7月24日～7月24日	1日間	森永 淳志	特費 令和7年度老人福祉施設研修Ⅰスピーチロックにならない声掛けとは	ホーム(会議室)	12:45～16:00	福島県老人福祉施設協議会	スピーチロックの現状と背景他
8月5日～7月24日	1日間	高野 拓巳	特費 令和7年度リスクマネジメント研修日常に潜む事故 ヒヤリハットを上手に活用する	ホーム(会議室)	13:20～16:30	福島県老人福祉施設協議会	福祉施設における実践リスクマネジメント他
8月18日～8月18日	1日間	富澤 亨太	特費 令和7年度福島県福祉・介護職員のつどい	ビックバレットふくしま	13:30～15:45	福島県保健福祉部	知事等からの激励のこたば、グループワーク他
8月18日～8月18日	1日間	森 真宏	特費 令和7年度福島県福祉・介護職員のつどい	ビックバレットふくしま	13:30～15:45	福島県保健福祉部	知事等からの激励のこたば、グループワーク他
8月25日～8月25日	1日間	北里真由美	特費 令和7年度相相地域高齢者食事支援研修会	環境放射線センター	13:00～16:00	相相保健福祉事務所	食事支援の自分の強みと弱みを知ろう他
8月25日～8月25日	1日間	木村杏玲亜	特費 令和7年度相相地域高齢者食事支援研修会	環境放射線センター	13:00～16:00	相相保健福祉事務所	食事支援の自分の強みと弱みを知ろう他
8月28日～8月28日	1日間	小林 明美	特費 令和7年度高齢者権利擁護推進事業「権利擁護推進員養成研修」管理者向け高齢者虐待防止研修	ホーム(会議室)	13:00～16:30	福島県社会福祉士会	介護に関する最新の考え方を知り、高齢者の権利擁護のための課題解決の考え方を習得する

8月29日～8月29日	1日間	佐々木裕行	特費	令和7年度第1回法人連絡協議会	田村福祉会	10:30～15:00	法人連絡協議会	各法人状況、情報交換等
8月29日～8月29日	1日間	佐藤 義幸	特費	令和7年度第1回法人連絡協議会	田村福祉会	10:30～15:00	法人連絡協議会	各法人状況、情報交換等
9月10日～9月10日	1日間	山口 明子	特費	令和7年度アンガーマネジメント研修	ホーム(会議室)	12:45～16:30	福島県社会福祉課	福祉職員に求められるアンガーマネジメントとは他
9月16日～9月16日	1日間	菅野 若菜	特費	令和7年度社会福祉施設看護等職員研修	ホーム(会議室)	12:45～15:30	福島県社会福祉課	福祉施設での看取りについて他
9月17日～9月17日	1日間	佐藤 義幸	特費	令和7年度安全運転管理者講習	鹿島農村環境改善センター	9:30～16:30	福島県公安委員会	安全運転管理者等に対する講習
9月18日～9月18日	1日間	菅野ゆかり	在介	令和7年度第2回地域ケア会議	いちばん館	13:30～15:30	飯館村地域包括支援センター	個別ケースの検討について他
9月24日～9月24日	1日間	佐藤 敏子	特費	令和7年度社会福祉法人監事研修	ビックバレットふくしま	13:20～16:00	福島県社会福祉協議会	社会福祉法人の監事が実施する会計監査のポイント他
9月25日～9月25日	1日間	佐藤 義幸	特費	令和7年度生活相談員研修会	ビックバレットふくしま	10:30～15:30	福島県老人福祉施設協議会	「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方」検討会中間とりまとめ他
10月7日～10月7日	1日間	小林 明美	特費	令和7年度高齢者権利擁護推進事業「権利擁護推進員養成研修」管理者向け高齢者虐待防止研修	福島県男女共生センター	10:00～16:00	福島県社会福祉士会	介護に関する最新の考え方を知り、高齢者の権利擁護のための課題解決の考え方を習得する
10月9日～10月9日	1日間	北里真由美	特費	令和7年度相双地区集団給食研究会第3回研修会	原町生涯学習センター	13:30～15:00	相双地区集団給食研究会	誤嚥性肺炎について他
10月9日～10月9日	1日間	木村杏玲亜	特費	令和7年度相双地区集団給食研究会第3回研修会	原町生涯学習センター	13:30～15:00	相双地区集団給食研究会	誤嚥性肺炎について他
10月28日～10月28日	1日間	佐々木裕行	特費	2025年度TMC研修会	ウエディングエルティ	13:30～17:00	(株)TMC経営支援センター	TMCの事業報告・事務組合の活動報告他
10月28日～10月28日	1日間	佐藤 義幸	特費	2025年度TMC研修会	ウエディングエルティ	13:30～17:00	(株)TMC経営支援センター	TMCの事業報告・事務組合の活動報告他
11月6日～11月7日	2日間	井上 祥行	特費	令和7年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程リームリーダー研修	福島県社会福祉協議会	9:30～16:40	福島県社会福祉協議会	チームリーダーとしてのキャリアデザインと自己管理他
11月22日～11月22日	1日間	山口 明子	特費	相双地区特別養護老人ホーム連絡協議会介護技術研修会及び第3回意見交換会	梅の香ひろば	13:30～16:30	相双地区特別養護老人ホーム連絡協議会	楽フザ介護を学ぼう他
11月27日～11月27日	1日間	木村杏玲亜	特費	令和7年度社会福祉施設栄養士研修(オンライン研修)	ホーム(会議室)	13:15～16:00	福島県社会福祉協議会	看取り期の栄養管理他
11月28日～11月28日	1日間	佐藤智恵子	特費	相双地区のプラチナナース研修会	鹿島農村環境改善センター	13:00～16:00	福島県看護協会	看護職の人生設計・ハッピーライフプラン他
12月2日～12月2日	1日間	雷澤 亨太	特費	令和7年度認知症ケア研修	福島県男女共生センター	14:00～16:00	福島県老人福祉施設協議会	VR認知症～認知症を“体験”する～他
12月2日～12月2日	1日間	菅野 明洋	特費	令和7年度職場研修担当職員フォローアップ研修	福島県総合社会福祉センター	9:50～16:00	福島県社会福祉協議会	職場研修の考え方と推進方法他
12月10日～12月10日	1日間	佐々木裕行	特費	令和7年度苦情解決責任者・第三社委員研修(定員オーバーのため受講できず)	ビックバレットふくしま	10:30～15:30	福島県運営適正化委員	苦情解決制度の仕組みと意義他
1月16日～1月16日	1日間	佐藤 義幸	特費	令和7年度法人連絡協議会生活相談員研修	さくら湖自然観察ステーション	10:30～15:30	法人連絡協議会	相談員間の交流および情報共有・もしもの時に話し合いを考える他
1月20日～1月20日	1日間	菅野ゆかり	在介	令和7年度相双医療圏退院調整ルール運用評価会議	福島県環境放射線センター	13:30～15:30	福島県相双保健福祉事務所	「相双医療圏退院調整ルール」令和7年度分アンケート調査結果報告他
1月23日～1月24日	2日間	佐藤 義幸	特費	令和7年度第2回法人連絡協議会	三春の里田園生活館	13:30～16:30	法人連絡協議会	法人運営近況報告及び勉強会
2月18日～2月18日	1日間	北里真由美	特費	令和7年度栄養士研修	ホーム(会議室)	13:30～16:00	県老協	栄養ケアプロセスの考え方他
2月18日～2月18日	1日間	木村杏玲亜	特費	令和7年度栄養士研修	ホーム(会議室)	13:30～16:00	県老協	栄養ケアプロセスの考え方他
2月20日～2月20日	1日間	佐々木裕行	本部	令和7年度社会福祉法人理事・評議員研修	いいいたてホーム会議室	13:15～16:30	福島県社会福祉協議会	これからの時代に求められる社会福祉法人の役割とは

令和7年度 施設内研修等一覧

研修期間	会議名等	参加者数	研修名	研修場所	時間	内容
5月29日～	1 日間 職員会議	26	危機管理研修 (介護事故防止のためにリスクマネジメント)	会議室	17:00～	職員個々の危機意識を上げる、当ホームのリスクマネジメントの取り組みについて 他
5月29日～	1 日間 職員会議	26	感染症対策の演習 (BCP)	会議室	17:00～	安全な吐物処理法、PPE装着方法、ソーニングにつて
6月26日～	1 日間 職員会議	21	ハラスメントについて	会議室	17:00～	カスタマーハラスメントに対する向き合い方について
6月26日～	1 日間 職員会議	21	BCP机上訓練 (感染症対策時の業務継続計画)	会議室	17:00～	高齢者介護施設における感染症対策 (停電時の食中毒予防) について
7月30日～	1 日間 医務室	31	口腔ケア勉強会	会議室	13:30～	口腔衛生管理について (講師:くまがみ歯科 熊耳隆浩歯科医師)
7月30日～	1 日間 職員会議	31	研修報告、福祉人材育成と職場研修	会議室	17:00～	職場研修の考え方、OJT・OFFJTの機会と方法について
8月28日～	1 日間 職員会議	27	身体拘束・高齢者虐待防止研修	会議室	17:00～	スピーチロック防止における心構え、スピーチロックにならない声掛けについて
8月28日～	1 日間 職員会議	27	リスクマネジメント研修	会議室	17:00～	日常に潜むヒヤリハットについて
8月28日～	1 日間 安全対策委員会	27	BCP机上訓練 (自然災害時の業務継続計画)	会議室	17:00～	基本方針・緊急時の対応、自然災害時の参集について
8月28日～	1 日間 職員会議	27	ICT研修	会議室	17:00～	「ケアカルテ」「ハナスト」の入力方法について
9月24日～	1 日間 安全対策委員会	20	BCP演習、自然災害時避難訓練・総合訓練	施設内	11:00～	地震発生後、火災発生時の避難誘導と二次災害からの移送訓練 (BCP)
10月30日～	1 日間 感染症委員会	24	感染症対策について	会議室	17:00～	インフルエンザ予防と対策について
10月30日～	1 日間 職員会議	24	リスクマネジメント研修	会議室	17:00～	防げる転倒と防げない転倒、転倒事故の原因分析について
10月30日～	1 日間 職員会議	24	研修報告、アンガーマネジメント	会議室	17:00～	「福祉職員に求められるアンガーマネジメントとは」について 他
10月30日～	1 日間 職員会議	24	研修報告、福祉施設における看取りケア	会議室	17:00～	看取りにおける援助方法について 他
10月30日～	1 日間 職員会議	24	高齢者虐待防止研修	会議室	17:00～	利用者の尊厳を如何に職場内で守れるか
11月26日～	1 日間 医務室・職員会議	28	口腔ケア勉強会	会議室	14:00～	口腔衛生管理、高齢者の口腔ケアについて (講師:くまがみ歯科 熊耳隆浩歯科医師)
12月17日～	1 日間 職員会議	26	身体拘束防止対策について	会議室	17:00～	身体拘束の定義について 他
12月17日～	1 日間 職員会議	26	研修報告、介護技術研修会	会議室	17:00～	「こころとカラダが楽になる介護」、「大切にしている介護の三原則」について
1月29日～	1 日間 職員会議	25	リスクマネジメント研修	会議室	17:00～	転倒事故防止と対処について
1月29日～	1 日間 職員会議	25	ICT研修	会議室	17:00～	ICTの活用 (眠りconnect) について
2月11,14,16,18,20日	5 日間 ケア向上委員会	22	介護技術、移乗勉強会	西棟ホール	10:30～	スライドシートを使用しての体位交換・移乗介助方法等について
2月26日～	1 日間 職員会議	23	感染症対策演習 (BCP)	会議室	17:00～	感染症時のソーニング等について
2月26日～	1 日間 安全対策委員会	23	自然災害時 机上訓練 (BCP)	会議室	17:00～	地震発生時後の初動対応について
3月11日～	1 日間 安全対策委員会	20	自然災害時避難訓練・総合訓練、BCP演習	施設内	11:00～	地震発生後の避難誘導と消防署立ち合いでの訓練、停電時の応援要請訓練 (BCP) 等
合計			参加者延べ622人			